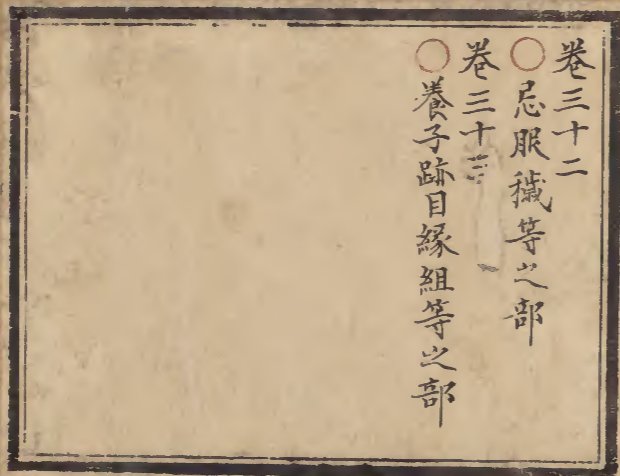


大成

史故

卷三十二
忌服穢等之部
卷三十三
養子跡目縁組等之部



内閣文庫			
三三二函	三三三〇	三三三〇	和書類
三架	三九冊	三〇號	

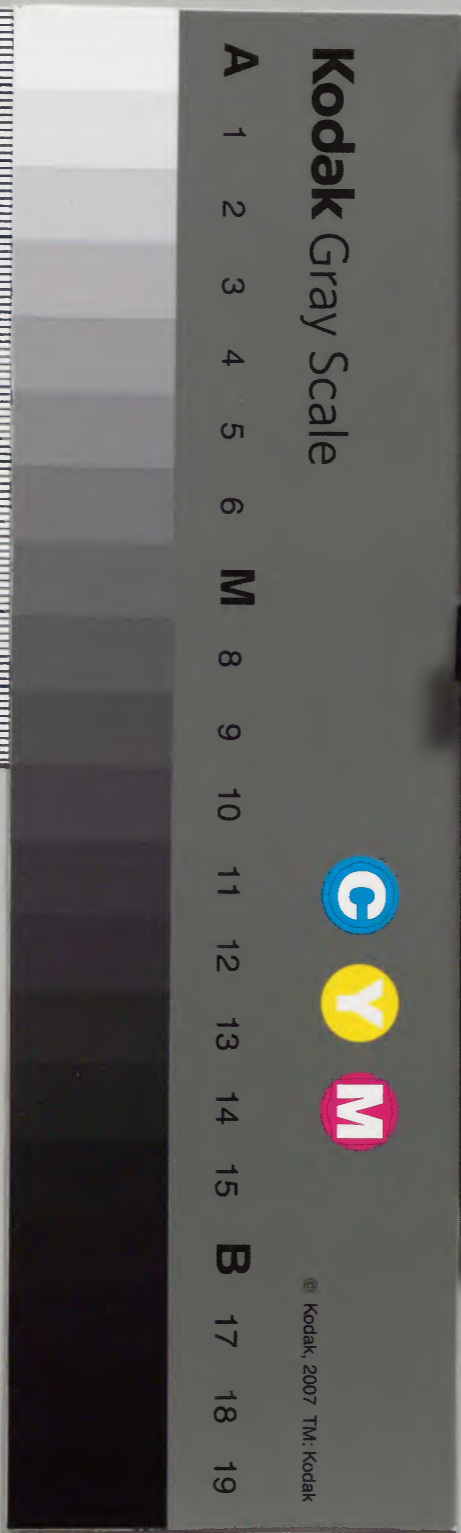
内閣文庫			
八〇函	三三三二	三三三二	和書類
一三架	三九冊	二〇號	

内閣文庫		
番號	和	33320
冊數	39 (16)	
函號	265	278

第七

00000000

共卅九



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

大蔵令

大蔵令卷三拾二

忌服穢等之類

貞享三年九月十七日



日向後忌服之類早其日致之書付之文解字出之類
上之旨也 経而之以後自法同申一のお解之申
秋元揚津と由目付 秋向年より更に申後之

貞享三年四月廿二日

一 今般服忌令少く之にお改之条自今以後之お申付旨
之般服之 修者之旨立色之類大忌及之更之類

子に同姓をてふは姓をたのむ事父母に忌戒に通服忌の
ありし事母を母嫁にあはせし中絶に服忌のありし
母が母を子に親殺す事母に服忌に母を子に親殺す
忌戒に母を母に親殺す事母に服忌に母を子に親殺す

一 嫡母 忌二十日 服二十日

父存中に内よきこと父死を後身後地と嫁して死す
る時、母の子を父服忌父新別を後身とたはひては
母の子を父服忌

一 継父 忌二十日 服二十日

一 但知より同姓せむは忌服

一 継母 忌二十日 服二十日

一 父死を後地と嫁して死す時、父を子に親殺す事母に服忌

一 新別を母 忌二十日 後百二十日

一 夫 忌二十日 後十三日

一 妻 忌二十日 後九十日

一 嫡子 忌二十日 後九十日

女子に嫁母に嫁むる事女子に親殺す

一 末子 忌二十日 後二十日

一 孝子 忌十日

後二十日

孝子と云ふは、時に嫡子二回一と云ふは、孝子とは、
孝子と云ふは、時に嫡子二回一と云ふは、孝子とは、

一 孝子 忌十日

後百五十日

一 祖父 忌二十日

後百五十日

一 母方 忌二十日

後九十日

一 曾祖父 忌二十日

後九十日

一 母方より忌二十日

一 曾祖父 忌二十日

後二十日

一 母方より忌二十日

一 伯祖父 忌二十日

後九十日

一 母方 忌十日

後二十日

一 兄弟姉妹 忌二十日

後九十日

別後より忌二十日 服忌を先列分

一 叔父兄弟姉妹 忌二十日

後二十日

一 嫡孫 忌十日

後二十日

女子は家初に生れても未済は推す父死云の後祖父
と云ふは、時に祖父母方より忌二十日 叔父兄弟と云

後志より又く祖父叔の方よりも嫡子と稱せしる源
玄源よりと云はる同例に外親類の定式と云はる
後志に別成

一末源 忌二日

服七日

娘方源 忌二日

服七日

一曾孫玄源 忌二日

服七日

娘方より曾孫玄源に服忌二日

一従兄弟姉妹 忌二日

服七日

又く姉妹より子孫母方後志同歩

一甥姪 忌二日

服七日

姉妹より子孫後志同歩

一七歳未満の小児の母後志子死忌の時を忌二日

その外同様に親類の忌一日尚早よりといふ同歩

死去の日教返りて返ら不及を忌

一園忌の事

遠國よりいづくか死忌一月を経く若未決と云ふも

父母の死より忌六十日服十二月外の親類ハ

父母の日より服忌三日教返の父より忌此日教

るして若年ハ一日を患腹のり同系

一 手心後をく変

又し腹をいすし不ゆし妙し腹を有しハ母の死を

此日より二十日十二月之腹をく之く不及二年腹を

おのきし腹をく内か治きし腹を有るそ日殺終ハ

進る不及腹を若日殺り何くハ其後ハ腹をの

日殺の之くか治きし腹をく内また腹を有しハ母

分の日よりおのきし腹をく之く

一 腹をく事

一 産釋 又七日 母に指五日

一 血荒 又七日 母に指十日

一 流産 又六日 母に指十日

一 死釋 一日 母に指十日

一 浴令 以水以骨

追加

一 又死をく後母他は嫁しと死をく時ハ定式し腹を

の之く

一 離別し母を視るは母を懐く腹忘る之也

一 喪父死す後母他を嫁ぐ死す時ハ腹忘る

之也

一 純父母を親類ハ腹忘る

一 父ハ母を養ふ但父事す時ハ純母の腹忘

る也

一 妻ハ腹忘る但子出せし時ハ妻忘る日

一 離別し祖母を懐く腹忘る也

一 嫡子お果ハ後二男をも末子をも家督と定む

を腹忘嫡子不承す一 庶男も後家督不承す

時ハ末子不承す

一 出娘をりとりも知少より出育せし是或ハ入

を取家督を懐く時ハ出父母ハ腹忘る其父母と同歩

一 義従子も腹忘る別あり嫡子ありとりハ末子

一 准之節ハ親類同姓多ふしハ是式ハ腹忘

る也

一 同姓をも異姓をも一人ハ出娘の漢者ハ是也

一方の腹忘る也

一 孝子あるとの忠告方へ親類地口忠告に於てそのは
後をたす

一 中藏の日記に十日と云ふ言や他ハ是に准む細言
と云ハ二日や七日と云ハ何也

以上

貞享四年二月九日

服忌に成神位有ると云え

言殿院殿に終 所對面を其と出災地と成

と云ふとハ 沖津母に法通理を成す言 沖津母不

以極の忠告に於て

柱昌院殿に方々を以て其の法をよの法祿の忠告

と云ふ遠い中言以極に方々成し服忌に成すの忠告

右に於てその法をよと云ふに成す中を

柱津方に例を以て其の法をよと云ふに成す中を

の忠告に於て

二月九日

今度の新日光御門に於て其の法をよと云ふに成す

け言の忠告に

貞享二年五月十日

服忌令追加

一 父死を以て後母他に嫁し居るに於て所定式に後忌
の父とす

一 母死を以て後遺孀何方に居るに於て他に嫁せしむるに
於て所定式に者母に服忌可也

一 妻父死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌

一 妻父死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌

准し其後母に服忌可也

一 嫡母死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌可也

一 父死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌可也

一 嫡母死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌可也

一 父死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌可也

一 父死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌可也

一 父死を以て後妻母他に嫁し居るに於て所定式に
母に服忌可也

一 吳父兄弟姉妹の親類にお出さるる戚族長父の文
一 抄方の親類父も通々長父の別戚族長母の親類
長父の文

一 嫡子お果は後次男うそも末子うそも家傳と定所
附は甚股長嫡子も准す一 次男うそも家傳と定
けし居時お末子も准す也

一 義深の子長後長正別り嫡子たりしうそも
末子よの准くゆゑ親類同性もふたひては義の
後長父の文

一 家父父の恩懐き末子も地能南といふるも一
他家と通はる後長は末子又家父を地能も信
いへば長父家も此親類も他長に懐きゆく定義の通
後長父の文

一 他家に末子もその母の方を嫡母と定むるも
長父も其まじりて長母も戚と股長父の父但長父
をいへば後長父也

一 女子婚嫁の事より長父の正成ハ入算を取らぬ
お漬し時の長父の親類も是とくお出さる後長父

一 喉吐痔おらるる後膿血水出る中へ一信奉

一 脚内腫る後不苦む自らるる淨礼後不苦む

一 産穢之婦人と前自苦む時今同左同火らるる一

信奉 脚内腫る後不苦む

一 月水穢之婦人有るる 清毒治る期六時より同左

一 同火不仕り信奉 脚内腫る後不苦む

一 忌 脚内腫る者也 穢る不苦む但信奉を急

の仕

一 腫る者 脚内腫る後不苦む

一 産月之婦人有るるの又新産之婦人有るるの

お産又の忌後不苦む淨礼後 脚内腫る後

不苦むを自合し淨礼も不苦む

一 房事 脚内腫る未迄後勤るもの六時より淨水

次身も不苦む

一 乃志匠の淨水治りて信奉 脚内腫る後不苦む

一 自らるる淨礼も不苦む

一 けらるる後血出るもの有るる 脚内腫る

一 不苦むを急む 脚内腫る後不苦む

一 二足ハ前日ノ朝ニ付、法中ノ湯ニ入リ、其ノ内ニ
一 三年前日ノ朝ニ付、法中ノ湯ニ入リ、其ノ内ニ

心工

心工 浄社系ノ所

一 腹ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所
一 還居ニ後ハ法中ノ湯ニ入リ、其ノ内ニ

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所
一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 忌 浄社系ノ者ハ六日朝ヨリ付、退会ニ七日 浄社系ノ所

一 常時胸を因難回火は男痛し

一 胸内痛し、信草或は後動者、冷水釋し婦人等

一 其のハ常夜を重し胸より回難回火は男痛し

一 忌のそのこまき者ハ冷水を湯瓶及段に及ん

一 胸内痛止し男若し

一 急病人等々忌し、成り取らる、胸内痛止し信草

一 信草若しを自分し、淨れし男若し

一 産月婦人等ハ、其産後成り取らる、信草若し

一 細く胸内痛しを忌し、信草自分らの淨れし男若し

一 産月婦人等々忌の少く、高き一、忌し、おれ枝

一 胸内痛止し男若し、胸内痛止し男若し

一 用事、胸内痛止し男若し

一 痔し血麻病腫れ、少く、おれ枝、男若し

一 信草は、信草、但、胸内痛止しを忌し、法、元

一 自分し、淨れしを忌し、法、元

一 腹内痛、男若し、冷水、男若し、信草

一 信草、男若し、自分し、淨れし男若し

一 血痰、男若し、又、男若し、男若し、男若し

一 此書は 河内陸奥に 若くは自ら之 佛に 成
る者

一 口中に 若くは自ら 血を 飲む 若くは自ら 飲
む 及ぶ

一 此の 若くは自ら 又いふ 若くは自ら 又いふ 若くは自ら 又いふ
出れば 若くは自ら 血を 飲む 若くは自ら 飲む 若くは自ら 飲む

一 此の 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ
河内陸奥に 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ

一 房車 河内陸奥に 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ

一 若くは自ら

一 河内陸奥に 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ
若くは自ら 及ぶ

一 けり 河内陸奥に 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ
若くは自ら 及ぶ

一 牛馬 雜承 犬羊 雑教 之内 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ
若くは自ら 及ぶ

一 牛馬 雜承 犬羊 雑教 之内 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ 若くは自ら 及ぶ
若くは自ら 及ぶ

一 産月婦人育く急又急病入育く赤白帯又赤白
く赤白帯のいふお苦しい但 沖袋代をいふを
急のいふ

一 産月婦人育く急又急病入育く赤白帯又赤白
は後いふ清い内 沖袋代をいふお苦しい
一 月 沖袋代をいふお苦しい

一 痔し血淋病腫物膿水が赤白帯のいふお苦しい
但 沖袋代をいふお苦しい

一 脱肛痔病のいふお苦しい

沖袋代をいふお苦しい

一 血癍瘰癧のいふお苦しい
沖袋代をいふお苦しい

一 赤白帯のいふお苦しい
沖袋代をいふお苦しい

一 産月婦人育く急又急病入育く赤白帯又赤白
隔はく赤白帯のいふお苦しい
沖袋代をいふお苦しい

一 産月婦人育く急又急病入育く赤白帯又赤白

一 取犬羊麻摺帳

七十日

一 武足ハ若目ノ朝方付シテ中ノ日浦ハ西ノハ奥ノ朝方

一 六年若目ノ朝方付シテ中ノ日浦ハ

元禄二年年四月十九日

一 去々年法 領收改書之月一ヶ條改書之候

此同付中ノ朝方付シテ

一 正月四月九月并毎月十六日 御宮

御名代法 御名代別年十七日 御名代御宗

御名代御宗

一 十六日朝方付シテ若目朝方 御名代法

御名代法 御名代別年十七日 御名代御宗

御名代御宗 御名代別年十七日 御名代御宗

右ノ通 御名代御宗 御名代御宗

元禄六年申年九月六日

一 若目朝方付シテ 御名代御宗 御名代御宗

此同付中ノ朝方付シテ

一 子息ノ死去者名跡在座ノ事有程録名ノ内又ハ

他人ノ名跡初程ノ知リ申下ルル事有程録ノ事又ハ

山腰寺

山腰通

山腰物

小幡法

通

山腰

山腰

通

山腰

山腰

山腰

山腰

山腰

山腰

山腰

山腰

山腰

山腰

右ノ面ノ長谷ノ村ノ奥ノ山腰寺ノ境内ノ
之ノ年ノ長谷ノ村ノ奥ノ山腰寺ノ境内ノ

二月廿八日

元禄六年三月廿一日

股志令

一 父母

忌二十日

股志令

一 祖父

忌二十日

股志令

遠祖ノ遺徳ノ地記ニ有ルキ事ノハ實ニ父母ノ同姓
ノ事モ異性ノ事モ長谷ノ村ノ奥ノ山腰寺ノ境内ノ
ノ事ノハ實ニ父母ノ同姓ノ事モ異性ノ事モ長谷ノ村ノ奥ノ山腰寺ノ境内ノ
祖父ノ御叔父ノ地ノ事ノハ實ニ父母ノ同姓ノ事モ異性ノ事モ長谷ノ村ノ奥ノ山腰寺ノ境内ノ

生まじくし、末子も許す

一 末子 忌十日

後二十日

一 出子 忌十日 後二十日
出子小若ら後忌日別あり、母智と定付と
嫡子と腹忌の父と

一 出子 忌十日

後二十日

一 出子 忌十日 後二十日
出子と定付と嫡子と腹忌の父と

一 出子 忌十日

後二十日

一 祖父 忌二十日

後二十日

一 祖母 忌二十日

後二十日

離別せしむ祖母と後忌を別儀

一 祖父 忌二十日

後二十日

一 祖母 忌二十日

後二十日

一 祖父 忌十日

後二十日

一 祖母 忌十日

後二十日

一 伯祖父 忌二十日

後二十日

一 叔祖父 忌十日

後二十日

一 父母 忌十日 後二十日
父母親智し兄弟姉妹は中減後忌の父と

一 兄弟姉妹 忌二十日

後二十日

一 別後より三日を以て後忌の儀を別

一 異父兄弟姉妹忌十日 後二十日

一 嫡孫 忌十日 後二十日

一 嫡孫兼祖を以て嫡子と後忌の父を祖父母と云

之時に嫡孫の方を以て十日十三日を後忌の父と云

一 親類後忌を以て別當孫を孫と云ふは例之

一 末孫 忌二日 後七日

一 女子を以て孫と云ふは末孫を以て孫と云ふは例之

同例

一 養孫を以て孫と云ふは例之 後七日

一 娘の方より養孫を孫と云ふは例之

一 異父兄弟姉妹忌二日 後七日

一 又く姉妹の子を以て兄弟と云ふは例之

一 甥姪 忌二日 後七日

一 姉妹の子を以て後忌同例

一 異父兄弟姉妹の子を以て減じ後忌の父と云ふ

一 七歳未満の小児は後忌

一 父母を以て忌を以て別當孫を以て孫と云ふは例之

一日を忽日殺すに兼りて逝らざる及を忽日八歳有
定式に後忌の父と

附七歳未滿し小児の方と後忌をすく又母

死去し時ハ十日を忽を承りて親終末一日

を忽父母ハ年月を恒ら承りてハ父終日

卒日を承りて

一 閉居之事

を閉居せしむる死を年月を恒ら承りて

又母は卒日承りて卒日終日年月の親終日

閉居日より後忌の日殺す父と母と日殺す

若し一日を忽後忌の日殺す

一 卒後忌の父

父に後忌の父と母に後忌の父と母に死去の

日より二十日十二月の後忌の父と母に死去の内

からすに後忌の父と母に死去の内

母に死去の内

穢しす

一 産穢

丈七日

婦二十日

を國より七日来七日とて禊ぎ

七日の内取らうと日教し禊ぎをくく血荒流産

同日むきあし産穢の時同日

一血荒 支七日 婦十日

一流産 支六日 婦十日

取伸方くくく流産形辨方くくく血荒

一死穢 一日

家之内ら人死の時一間中居合りて死穢可く更之

敷居を隔りて一間中居合たり不在此穢

穢安く二階まで揚り口敷居より方くく穢

家内くくあみ死人とくく時くく骸方くく地中穢あり

死より後死骸成先別をく死後主知く糸若く

骸方くく此此合の穢也

一此合 水水

一改葬 孝忠一日

子はあつを思但も兼りて道ら不及を思り忌穢

い親に改葬し場出らうよのいを思すく忌穢

親類はき場出らうよあ及を思改葬しき小

成りて他人より一日を思ふべし

附考記の日より葬の日に日数考し

且強考記の日に葬の日に二日を思ふ他人

考し改葬の日に成りての一回の地考記の

聖日より葬の前日と或日考し及考し

改葬の成を新考し日限考しその日を思ふ

日限の成を附考後考し及考し

追加

一 養父死を以て後考し同居考しと云ふも他の考し

此考の成を以て他の考し同居考し

一 養父の妻考し其の考し同居考し

考し同居考し

一 養父の子考し其の考し同居考し

考し同居考し

考し同居考し

一 義理の嫡子考し其の考し同居考し

考し同居考し

一 家考し其の考し同居考し

一 遠海を渡りて貴子又定文し分代を以て更なる貴方
安方親類を御座る所守ふくお出せ定式に近
後忌の父し

一 貴子もたはるの定方し嫡母を以て継母を以て法育
を法りて遠海を渡りて貴子の嫡母継母を以て後忌
の父し遠海を渡せし所貴子の嫡母継母を以て近
後忌の父し

一 貴子もたはるの定方し嫡母を以て継母を以て法育
を法りて遠海を渡りて貴子の嫡母継母を以て後忌
の父し遠海を渡せし所貴子の嫡母継母を以て近
後忌の父し

一 嫁候より貴娘は成りては貴父母の定式し服忌に
より貴方し兄弟姉妹にお出せ申減く後忌可
受方しは仰親類の後忌を以て安方し親類の定式
し通お出せの父後忌

一 嫁候末お洞内を以て後忌にかりし其の父後お出せ
定式し是より日取つては後忌にかりし

一 父し貴腹忌を以て但父書お出せらる時ハ継母の後忌
の父し貴子もたはるの定方し其の父も同例

一 妾ハ腹忌を以て但子出生よりは一日を以て血荒

服忌をすくふ十日を思ふ所なり一死去はるの親類ハ
おれ定式く彼忌の父之室方々親類ハ父ハ
定式く彼忌の父之祖父母御叙父姑ハ中藏之
彼忌の父ハ兄弟姉妹ハおれ中藏之彼忌の父
之ハ中親類彼忌をすく

一 出子於去所前ハ中清清はく之ハ後死去ハリ
家格之定内之歳出父毎斗十月十二月之彼忌
の父之

一 中藏之自殺二十日之父也ハ彼ハ淋之

一 相七日ハ日也ハ二日也

一 一日もカクハ高座ハ九所より即ハ夜之九所也
九所カクハたハ一日之積也

元禄六年三月五日

元禄八年九月廿八日

先

- 一 紅葉山 御社系本山王社 御系詣ハ御斗ハカ凡
- 一 同系ハカ凡カク彼改ノ中変
- 一 紅葉山 御系代ノ外御系カク 御系詣又カ

一 河原代の尉成西元之ハ彼改之不及ハ交

一 河原山 河原殿 河原詣之長日光

一 河文 河原代尉成 河原見方之白彼改之

尉成河原山 河原殿ハ膝ノ者ハ我ニ若ク

元禄十一年六月廿日

後志令追加ノ書有之

一 河原代より法向ノ書有之彼ノ

一 婚方ノ源師妹方ノ相嫁又ノ姉妹ノ後方ノ種

一 一入本志子ノ系ハ種智ノハ何叙又此ハ二日ノ忘七日

一 一後ノ書方ノ

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

一 一先代法清ノ後継祥方ノ系ハ二先代又事茂

沖社系本日高き付より是迄 沖社系本日

還後之復也 城のはり支

一 借手等出波勤へ向くハ新夜より精進同日を切

波りあり也 城のはり支

一 忌服を禊ぐ者ニ趣沖用ニ高ハ外板進を其後ハ

ふ若し

一 二月朔日 沖境 沖頂戴有は清成

一 清社系ハ世々のおんは 沖境 沖頂戴有は

一 忌服を禊ぐ者ニ 城のはり

一 沖又 沖名代ハ 沖付ハ忌服を禊ぐ者高月ハ

沖目通ハ子息成を其後ハ沖目通ハ子息成

一 沖名代ハ系言上ハ其後右因ハ

一 沖名代ハ勤ハそのおん有精進波りあり也

一 清名代ハ勤ハ事

一 二月

一 山王根津

一 沖社系高日忌服を禊ぐ者

一 山王根津 沖社系高日忌服を禊ぐ者

一 河内通のふりかへては相平の退却の不及は
是後以後 河内通のふりかへては

一 河内通 上流くは後くは 上流所 元相

不及退却の不及

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

一 河内通代は 河内通代は 河内通代は 河内通代は

正徳四年二月廿九日

先

- 一 日光寺の正勤之角
- 一 浄文 法善堂の札之尻前日著六時精進之儀
- 一 浄文 法善堂に見世の子前日著六時朝不及精進之儀
- 一 法善堂の子前日著六時浄文の多し所浄文の勤
- 一 浄文の子前日著六時浄文の子前日著六時及
- 一 浄文の子前日著六時浄文の子前日著六時及

一 日光寺の正勤之角

中越之善心を忌憚る角と云

浄文の地を度木郎常と云見世の子前日著六時及

一 家来寺の正勤之角

先を別火の給ふ善心を後し者八清めし所と云

不苦むむ及別火也

右日光寺后の四角の如き形没者有書付あり
向後左様の子前日著六時

二月

之の中安んず人釋方く、与浦や勿漏化人々
彼取んふの釋成る浦沙く支

本人の志服も中安ん海の釋をいむ他人之

志服取んふの釋をいむ

之度日光山は法事一身をば越へて右側去之

はふりぬ河原の上のよおまき

二月

享保二年六月二日

御社奉拜 御文 御代 御守り長四清

之度齋永七高年江 此の通に月は好ま

向くこのは逢ふ

六月二日

享保十八年七月

御宮 御系指し別 豫系又も法法相載ん去

將おるふ徳多の青葉木附座法之内にハ

御池殿通し勤仕る友の 勅額四門外通し

と書きたる御紙を張中細く又ハ書きたる及

但平論と書葉ハ有るは七月に成紙蓋す

の父之祖又母伯叔又姑ハ事減之服忌の父之
兄弟姉妹ハ母上ニ事減之服忌の父之兄弟ハ親
後忌之去テ所お積セ次或ハ地記尚モ所積子
同性トモ異性トモ皆又母トモ定式之應服忌又之
養方ノ兄弟姉妹ハ母トモ減之服忌一父之以外
之親於後忌ヨリモ身方之親於定式ノ所お母
服忌の父之

一 嫡母 忌十日

服二十日

對面者ノ子トモ又後忌通流ノ子トモ對面者トモ

服忌之更之又死云之後地ハ嫁ノ或又離別モ之
お母ノ子トモ又後忌嫡母之親於後忌之

一 繼父母 忌十日

服二十日

初より同居セシルハ之服忌又死云之後地ハ嫁ノ
或又離別モ之親於對面者トモ又後忌但繼父母之
親於ハ後忌之

星月残カケル

一 離別ノ母 忌二十日

服十三日

一 支 忌二十日

服十五日

一 妻 忌二十日

服九十日

父母稱智之兄弟姊妹中減服忌之忌

一 兄弟姊妹 忌二十日

服二十日

別後よりより少く後忌不立之別

一 異父兄弟姊妹 忌十日

服二十日

一 嫡孫 忌十日

服二十日

嫡孫系祖父母時を嫡子之服忌より更に祖父母死去
之時後嫡孫之家後六十日十二月後忌の更く以外
之親類後忌並別なり 曾孫玄孫ありしは固例之

一 未孫 忌二日

服七日

三

一 嫡子 忌二十日 服二十日

亦智と定めし時を未子に後より更に女子を嫁しければ未子に唯す

一 未子 忌十日 服二十日

若し未子に嫁しければ後忌並別なり 亦智と定めし時を嫡子に服忌

一 養子 忌十日 服二十日

亦智と定めし時を嫡子に服忌一清し

一 夫と父母 忌二十日 服百五十日

一 祖父母 忌三日 膝百奉日

母方忌三日 膝廿日

離別せしむ共祖母も膝忌別後

一 曾祖父母 忌二日 膝廿日

母方ハ膝忌二日但左五一日

一 高祖父母 忌十日 膝三十日

母方ハ膝忌二日

一 伯叔父母 忌二日 膝廿日

母方忌十日 膝三十日

一 女子は家初小生れくと末孫は唯是娘方之膝忌

同前

一 舅孫主孫 忌二日 膝七日

娘方ハ舅孫主孫ハ小膝忌二日

一 従父兄弟姉妹 忌二日 膝七日

父之姉妹ハ子孫母方ハ後忌同前

一 甥姪 忌二日 膝七日

姉妹ハ子孫同前

一 吳父兄弟姉妹ハ子孫同前 膝忌二日

一七歳未満より小児ハ左股忌

父母と二日を忌其れ之程類ハ同世と云ふ性にて
一日を忌日程と云ふ程と云ふ及之を忌日ハ
定式之股忌の文云

附七歳未満小児ハ左股忌云々又母死云

一付ハ六十日を忌之即之程類ハ一日を忌

父母と年月を程と兼之とも云ふ日より

六十日を忌す

一閉忌之文

遠國よりおきて死去年月を程と告母と云ふも父母

冥身の日より忌六十日股十二月外に程類ハ閉忌日

後忌残日教一云ふ之忌之日教云ふら告母ハ一日を

左股のり左同前

一左股後忌之文

父之股忌云々ハ左内母之股忌云々ハ母之死云之日

より六十日十二月之股忌の文云々云々後忌之内

後忌者之日教終ハ迄ら不及又股忌母教云々ハ

左股忌之日教の文云々

親類改葬し場に出るものなきを思す一忌不食
親類の忌場に出るなきを思す及ん改葬し一日忌食
他人の忌も一日を思す也

附場起の日より葬の日近日殺力なきは
忌場始かう一日と葬の日と二日を思す
他人の忌も改葬し一日なりとの日即組
場起の日より葬の日近日殺日少く成
及なきを思す

改葬し後を新す中身日限終るその日を忌平

日限の存す所の後忌の追言及なきを思す
元禄六年五月廿一日

追加

- 一 世父死後母は居すところも他は忌食
後忌の父も他は居す所もあつては後忌も
- 一 世父の妻告つれは母以前に死すれば母は
世親類後忌も
- 一 父の後妻と通つた年より對面をせし母は後
忌の忌も

忘平日勝二月の文と母方の親類は後忘出
 方と別家智あはるる者子れとる海十
 嫡母と子純母と腹忘のあはるる者父と極等右
 因一但純母方親類は勝忘乎とく
 一家智あはるる者子れとる者母嫡母
 純母勝忘とて分他配南とる者子れとる勝忘と
 忘とく

一 書方と伯叔父姑兄弟姉妹人の子書方とるハ書職
 と腹忘の文とて忘方と伯叔父姑兄弟姉妹他家

一 方書方とるハと腹忘とて別

一 身書方とる系無方と伯叔父姑兄弟姉妹と
 人の子書方とるハと腹忘とる

一 父書方とる子人の子書方とるハ父と父母
 兄弟姉妹書方とるハと書職と後忘の文とて或
 父と書方とる身と書方とるハ書方とるハ
 書方とるハと書方とるハと書方とるハ
 後忘の文とく

一 書職と腹忘と祖父母伯叔父姑兄弟姉妹とるハ

一 如方し祖父母伯叔父姑舅父兄弟姉妹同例
一 嫡子正人の生計をせむハ惣意未だしとある

右ノ條更増補

元文元辰年九月

別紙添書

一 父妾とて妻と准しハ惣意及テ條以下ニ妻と
御意宣條十八年妾とて妻と御意及テ妻と
御意宣條前御意宣條者ハ妾と追テ通多しと

一 父斗とて子斗しハ妾子とて後ニ條以下ニ御
御意宣條者ハ妾と追テ通多しと

九月

元文元辰年十月十九日

以後後意人追加ハ白ニ添加の旨先達言ハ御
御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條
令御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條
御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條
御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條ハ御意宣條

右ノ紙法合ニ面ニテ書クニツラキ事

元文四年九月八日

日光山叢書礼事ノ一ニテ 作付面ニテテ法儀等
及御中刻 凶事煩痛所出ノ所及敷多ノ向後
之押ニテ然又々長病ハ各別一通ニ以テ公ニ
テハ 作付ノ所彼地ニテ幾種お勤メテ家事斗
テハお少取ラズテ得ル
右ノ紙書クニツラキ事

大成令卷之拾貳 終

大成令卷之拾三

告子御目縁組事ニテ

寛永十九年三月十日

一 告子御目縁組事ニテ云々遠近 作付ノ自今後
告父累年云々恙也云々公お勤メテ上告子ニテ組
亦者法儀儀ニテ 作付ノ御目縁組事ニテ
亦者ノ向後告子御目縁組事ニテ 作付ノ向後
若復又告父累年云々公お勤メテ上告子御目縁組一
事ニテ亦者由云々云々 右ノ告者昔以中ニテ事付

上意由

寛永二十七年三月六日

大書院番 山内性組 西之海蔵事

此等近き尚早申事由近番取寄候旨言上致上

作付之旨今之度而番取組取建之申事

若急之旨申候之度之旨自他申事候之族取寄

申事候之旨申上候申事候之旨申事候之旨申事

族取寄申事候之旨申事候之旨申事候之旨申事

大書院 山内性組 取寄之旨申事候之旨申事

對馬守氏親補列在方之移付之問傳

作之款

天和三年二月

是

寧子之旨申事候之旨申事候之旨申事候之旨申事

以上之旨申事候之旨申事候之旨申事候之旨申事

見申事候之旨申事候之旨申事候之旨申事

二月

元禄六年六月朔

一 此篇布之 欲士 臨月 願之 事 亦 是 追 之 月
致書 必 若 事 方 亦 有 其 旨 以 之 月 之 月 亦 出 傳
月 亦 傳 之 臨 向 之 月 亦 傳 之

元禄十二年正月

先

編之 介 せ ぐ ね 中 目 見 願 後 分 能 在
之 休 之 亦 有 之 中 目 見 亦 能 傳 之 亦 有 之
能 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

御 書 第 一 書 子 之 書 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
可 能 傳 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

書

寛永二年正月

亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之
亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之

四月廿日

寛永七年七月

又

親於遠近に自苦子に在首をくしりて首を指
而他人と聲中苦子を殺してもその時此時と云
わ猶ほ親を殺して自を殺す如く他人と聲
中子にうけ付りて之を殺して其の身は死す

西徳永末年十一月廿日

近年以来未だありて是極極の事一又を御と云

上 百前より年々有る親を漬漬中と云ふは

此の用遠ひくの力有るに反

若し代出條目げのを殺すまはくも其後
度くよひお遠くのまらくも其後見ると後
支配せしめんと能くも入の事を以て味るなり
けと程又おけし支出来はあつて一事を御より
支配せしめんと能くも其後見ると後
おん御を

二月

正徳六年 申二月十六日

岩崎組とも同火を消し一連中又揚りあぐ
収我いし一四日成りて又たかく死
しとのより自と以後もそ海にたてつて終つ
向くそ津味の中と云ふ 作らぬ

正徳六申年二月十六日

今歳以後し向くも岩崎子と又
御許容をいハ 御代ハ江割條に物さるお十
度そ子さるもの死云い申一未達子何さる

手痛よのそと物を持けしそ又配を以て完
み我射向しと預去をお渡さあぐハ今歳
後岩崎子の例は誰か次中不を御許容有
るしめしそ病者急うしと支配取しあが
残よ及を所しと頼り生言何さあぐハ 御代
江割條に何さるま江許容をいしとすれ然し
歳と後遺跡を漬くる言しものそ向くハ岩崎
人を撰ひ岩崎子と申 新中何さる者や

正徳六申年 閏二月廿七日

條

一 徳願家不願之因を分知

別法年中ハ頂戴なき而シテ徳願家とお濟せしむる
とのれくを法なき道なきを重く一子も本家
と重きとす可し由とや申す 法恩汗流てハ
自分も氣ハ重きを重くお濟せしむるは此を身代
と後を分知は本家(を)一附らるる事也

附息男多くとく重人重く申す此も重子

とく一重人重く自分も重とお濟せしむるハ

重子重く申す此も重子也

一 徳願のよくふ一子も本家誠にお濟せしむる或老後

も重く或ハ病者も重くといふも重く申す此も重子
とのなきも重く申す此も重子也 徳願の重く申す此も重子
重く申す此も重子也 別法年中ハ頂戴なき而シテ徳願家とお濟せしむる
とのれくを法なき道なきを重く一子も本家
と重きとす可し由とや申す 法恩汗流てハ
自分も氣ハ重きを重くお濟せしむるは此を身代
と後を分知は本家(を)一附らるる事也

附息男多くとく重人重く申す此も重子

とく一重人重く自分も重とお濟せしむるハ

重子重く申す此も重子也

一 徳願家所領の角を分知し

別御朱印を頂戴し、その家名を以て徳願家お

續き金きとのちきよはく、所恩所を蒙り其

一子をとんぶおぬ、喜ぶ子おとことも、改ふお家の

おぬとて家名を之とせり、自分とて、親族の中を

探ひしとて、おぬとておぬとて、おぬとて、おぬとて、

之とて、上載を何ふおぬとて、

附おとて、別とて、おぬとて、おぬとて、おぬとて、

續き、おぬとて、おぬとて、おぬとて、おぬとて、

右之條に宣得る旨者也

正徳六年甲辰二月

享保二酉年三月

中渡く是

世代友

年周之節迄

とて、及ば友所為見、分、其、越、於、波、地、為、年、附、越

是、年、身、有、出、子、於、書、以、及、中、於、南、地、後、出、於、中

の、身、有、出、子、於、書、以、及、中、於、南、地、後、出、於、中

人、も、智、り、昔、以、不、調、法、と、名、依、り、出、子、不、以

以守

享保三年八月廿八日

向後以書元初在信貴子所也 以守名初也

此書乃乃也

享保四年二月

是

一 出子初 成濟云云云云云云 一家云南内云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

一 他人を解貴子云云云云云云云云云云云云

享保七年八月廿日

申以上ノ七以下ノ者トモ書子預判元見後之為
仁用

但申上ノ家セウ凡お果ハ同家トモ書子
預判申上ノ名別

右ノ預判支記有シハ向ノトモ違ハシ

享保六子年十二月廿日

弟トモ書子^候報書子當ハ年増ノ者トモ書預
判^候向後年増ノ者子預判成ノ事ハ向後

ノ支配ノ上ハ取寄クニ申上候

享保六子年八月十八日

申年モ者及申上者有之者又モ書子と極
之ノ歳末迄ノ通式預判花方々々ノ向後
申上モ書子トモ書子知預判者ハ格別ニ子細
申上モ書子申上書及及申上モ書子向後
預判花方々々ノ向後

享保七年六月九日

申上モ書子トモ書子トモ書子トモ書子

養子、年一の後、養子出生、其、養子、家、智、也、
其、養子、間、教、り、也、又、養子、を、二、年、於、以、能、也、
其、養子、は、之、以、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、

享保七年六月七日
七月廿九日

御目見、以下、之、來、は、藩、代、ら、之、者、所、取、之、ら
以、没、也、其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、
其、養子、は、之、以、能、也、其、養子、は、之、以、能、也、

此後之系法 仍出於類以度及大者各為一節之系組
之配 其後之系一也

享保七年八月

陸奥政之臣

二列情是耶 若後村之用度地言百貳拾七石余

先祖之山負方之知上納地川分歸同石也

仍曾以海流之河以才河其之節同成之及後

拾現樣之 中重之大同各度地言百貳拾七石余は度地

常同彼地之石五十九石 亦其河用也 仍曾後

後之方之 河同見林野之石也南地也哉

山溪之格別之文也

遠列其南那賀茂村
屋浦之高十五石

平地之節高

之文以負之之知上納地川分歸同石也

仍曾以海流之河以才河其之節同成之及後

石

拾現樣之 中重之大同各度地言百貳拾七石余は度地

仍曾以海流之河以才河其之節同成之及後

仍曾以海流之河以才河其之節同成之及後

河同見林野之石也南地

此は重法 此等公抱入者ハ格別便宜者ナ
此後代筋者此子いふハ其令浪走格約
仕歳方ハ其家事ニ処末クニ此ハ其令浪走格
成此子ニ組ヒ其者ハ其令浪走格
此子ニ組ヒ仕候ハ其令浪走格
此味ニ其令浪走格ハ其令浪走格
之者ニ其令浪走格ハ其令浪走格
之肉ニ其令浪走格ハ其令浪走格

享保十二年十一月九日

一 惣領者此子ニ其令浪走格ハ其令浪走格
一切者ハ其令浪走格ハ其令浪走格
一 子ニ其令浪走格ハ其令浪走格
此生ハ其令浪走格ハ其令浪走格
一 此令浪走格ハ其令浪走格
此令浪走格ハ其令浪走格

右ノ紙向後ノ其令浪走格ハ其令浪走格
此令浪走格ハ其令浪走格
此令浪走格ハ其令浪走格

永平二年

右ノ紙組支配方之由之口為人得多ノ一書在
此留書居ハ中邊ハ

享保十六戌年八月廿七日

實子方之処為老伴 其以支配 右ノ邊
南ノ邊子ハ預之進言 實子方之由中邊ノ邊
未ノ方之進言 右ノ邊合成立之口 沙所法ハ實子
出生方之由身ハ老中 其以支配 右ノ邊
家來ホハ之口 金入用ノ言 其以支配 右ノ邊

右ノ預ハ後ノ邊成ハ右ノ邊ノ口 其以支配 右ノ邊
使成ノ口 實子ノ口 其以支配 右ノ邊
其以支配 右ノ邊ノ口 其以支配 右ノ邊
右ノ邊ノ口 其以支配 右ノ邊

享保十六戌年十二月

百表

小書法同家裁考組

右ノ邊文書

口所定組

出子

同 孫方吏

二百六拾張

内式百張四段勤内

右文庫内成徳居在願旦祖父源右文字事後別
富士郡加藤新田之字二百石余自分入用是石之
以分沖物成十分一石之現年二百石拾石余宛張
下重石又別上代出而別石 此分は前より
右山は徳川先親忠孝子源右文字 常重は根は友右
重頼公源右文字 常重は増之石文忠為るの家徳願
右中上石分書附書文忠為るの通徳居は
此分は新田十分一源右文字 常重は石分を新石永代
此分は常重の源右文字文忠為るの常重は石切年より元

上石分

十二月

享保十六年二月廿八日

享保十六年八月廿日

六十以上十七以下者多量は子願判元見は後石
分用は

細中以上石分將石果間成之者多量は石分は

石分は

右石分は通徳石分は

一 六指以上と義好歩方なくも是も孝子なる可敷也

孝子類は預て通て其の法 作方なり

但中以上と述孝子ある預て内あるは孝

子あるは後先懐く前も後も師同と法

作方なり

右に通て以上と中以上と者何れも孝子類も法なり

月補なり

享保十七年二月

初産後より生る内は孝子類は義好歩方なくも

向後中初産後者義好歩方の是年比述實子出生

之し節目おぼし者方なくは又も眼ホるは解孝子

類中成る勝子此方なく論預て後親者も可

おれり

右に是の法解

享保十八年四月八日

他人孝子とは後陰長浪人の子は中系と親類

如く大由中系系節者ら中しりて類なり

右に是の法述也

享保十八年四月

縁組預中より婚成お預以外を書は仕候向後為

不用と止 仰りし事

一 先年中其以後他書より書を仕候事と書候

以来成候事 此書は書候事と書候

四月

享保十八年十月七日

他人書字は成候預旨浪人より申上り親類方より

之預に商人の親類等より申上り預計に

但書先書とお違ひは自今と付け候との

事候

右の縁組支配方より申上り候事と書候

浪人より申上り候事と書候

一 浪人浪人より書候事と書候又浪人浪人より書候

事と書候

右の縁組支配方より申上り候事と書候

十月七日

享保十八年三月十八日

知方皇子の事と御成病来らるる御成病子細
方々前記の支配にお達らるる各別は凡そ皇子
の事と申す事子細は成る難成る

右の通りにお願ひ

元文元辰年八月二日

親類を致しよ由迄方々者ら成る事又貴妹
よき事と成向後之を御用ひ貴いすしよ
方々者ら成る事と成る事と成る事と成る事
と成る事と成る事と成る事と成る事と成る事

何し由迄方々者ら成る事と成る事と成る事
と成る事と成る事と成る事と成る事と成る事

右の通りにお願ひ

元文元辰年八月廿日

向後仰より御祝ひの事と成る事と成る事
祝ひの内にお願ひの事と成る事と成る事
之等事子細と申す事と成る事と成る事
右の通りにお願ひ

附言見下事子細にお願ひ

御目見の事 後身は貴子と目方との事

壬午年春の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

元文元辰年九月廿四日

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

元文元辰年十月十日

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

元文元辰年十月十日

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

元文元辰年十月十日

陪臣浪人 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右
の事 御目見の事 貴子と目方との事 是又右

元文二年八月十八日

縁組の病氣より婚姻締結新縁に義者
以後大娘病氣使母嫁に就ては元文二年新縁
に他は中義者お流の事なり

右新縁支配書外ありて友者より元文二年八月十八日

元文二年二月十二日

此廊中書出者より子に書子に頼り良親に
の事計り他人より書中より受り

但是書没者あり事なり

右大目方の松平九郎右衛門尉の尾張守御

但御目見の事ありて右に書りてあり

元文三年四月廿日

安子に書者出子に以後大娘子に病氣に書成沙
子に在御の事ありて御書方より元文三年
年数も経不中内又の書子ありて一皮紙に御
書ありて万敷にありて御書元文三年病氣に
使字にありて書又も書方より病氣に御書
書云も一皮紙にありて友者より一皮紙に

之為年收お見し申すもこのお勤振子こゝに於
又醫者御振お見し申すもこのお勤振子こゝに於
後之は御お見し申すもこのお勤振子こゝに於
取支配の上お他御お見し申すもこのお勤振子こゝに於
此のお頼の儀又も他にお見し申すもこのお勤振子こゝに於
以上之儀及お頼の儀又も他にお見し申すもこのお勤振子こゝに於
御頼の事

右之儀取支配し向くはのりお見し申すもこのお勤振子こゝに於
お勤のりお見し申すもこのお勤振子こゝに於

元文六年十二月八日

此の御お見し申すもこのお勤振子こゝに於
向後此の御お見し申すもこのお勤振子こゝに於
支配し向くはのりお見し申すもこのお勤振子こゝに於

右之儀取支配し向くはのりお見し申すもこのお勤振子こゝに於

元文六年三月

江崎

小幡左源太

同

同

仁左衛門病歿後其子豊之助切少之内在源左衛門
江 江府以依形勢豊之助又亦續心代友江
俾其後之友及之而治以先統者より
禁裏沖用後世勳且又代之悔意亦勳の身
別後之在源左衛門仁左衛門家曾亦續沖代友江
仁左衛門の物事ハ在源左衛門の仕
右ノ通中及び官の長得たる事

寛保二戌年六月

元禄
白文九郎孫
白文吉左衛門



先年引續有之海同不江一江府之元は及之
以味以多員令候今上納に殘令少分ハ願
預し江江 正、口切牙百儀江下之右ハ先格
許定所ハ味ハの事後ハ其法勅定より支配
のり後ハ

大成令卷三十三終

一



Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

